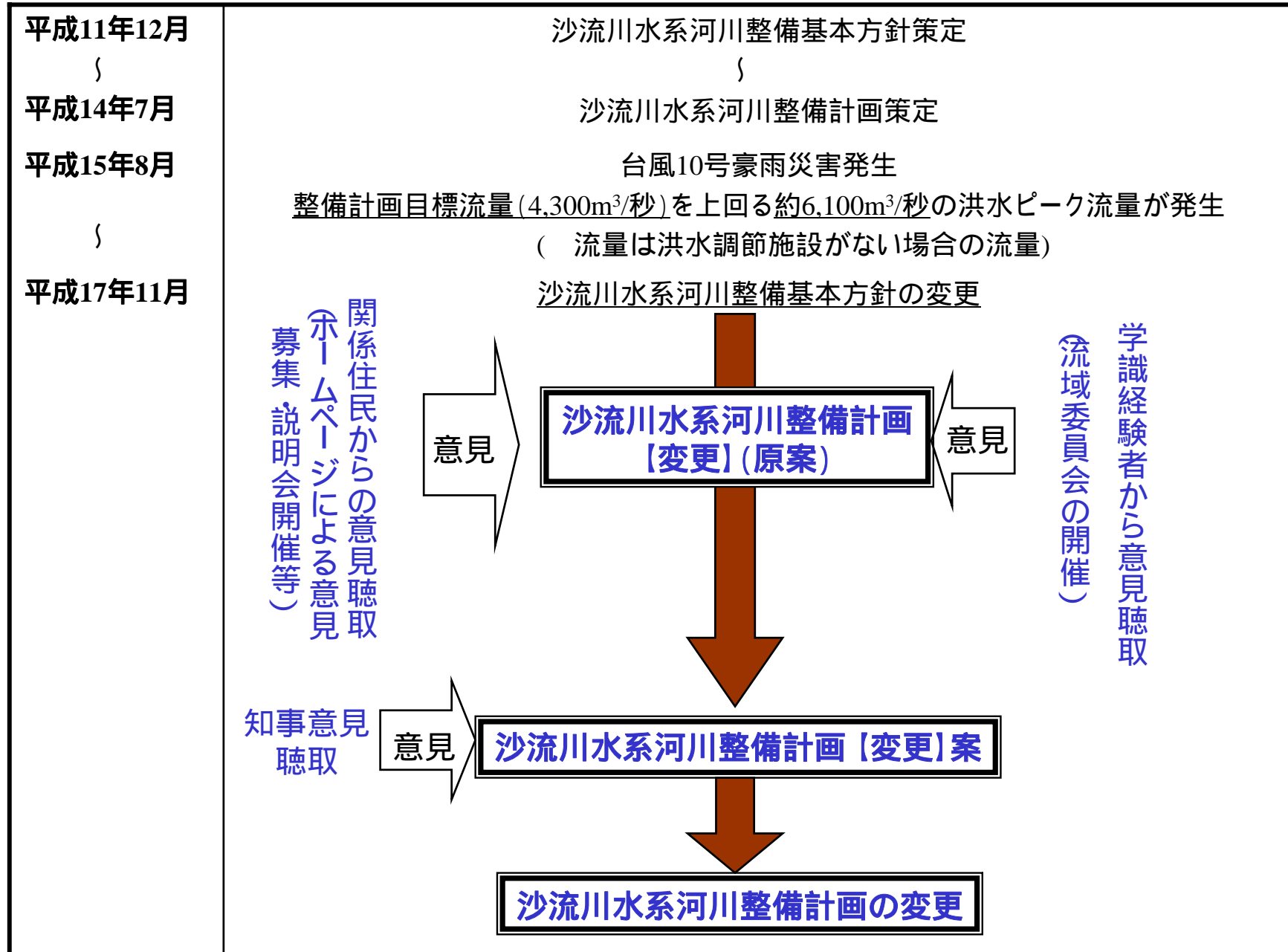


# 沙流川水系河川整備計画の変更概要

# 河川整備計画変更の経緯と今後の進め方

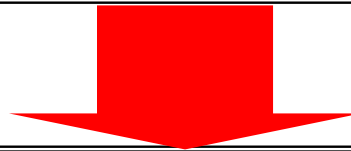


## 契機

河川整備計画の目標流量(4,300m<sup>3</sup>/秒)を上回る6,100m<sup>3</sup>/秒の洪水ピーク流量が発生



ほぼ全川で計画高水位を超えており、堤防からの漏水も発生するなど、甚大な被害が発生してもおかしくない状況

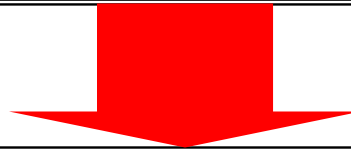


## 対応

現行の河川整備計画では、平成15年台風10号洪水に対応することができない。



目標流量を4,300m<sup>3</sup>/秒から6,100m<sup>3</sup>/秒に変更する。

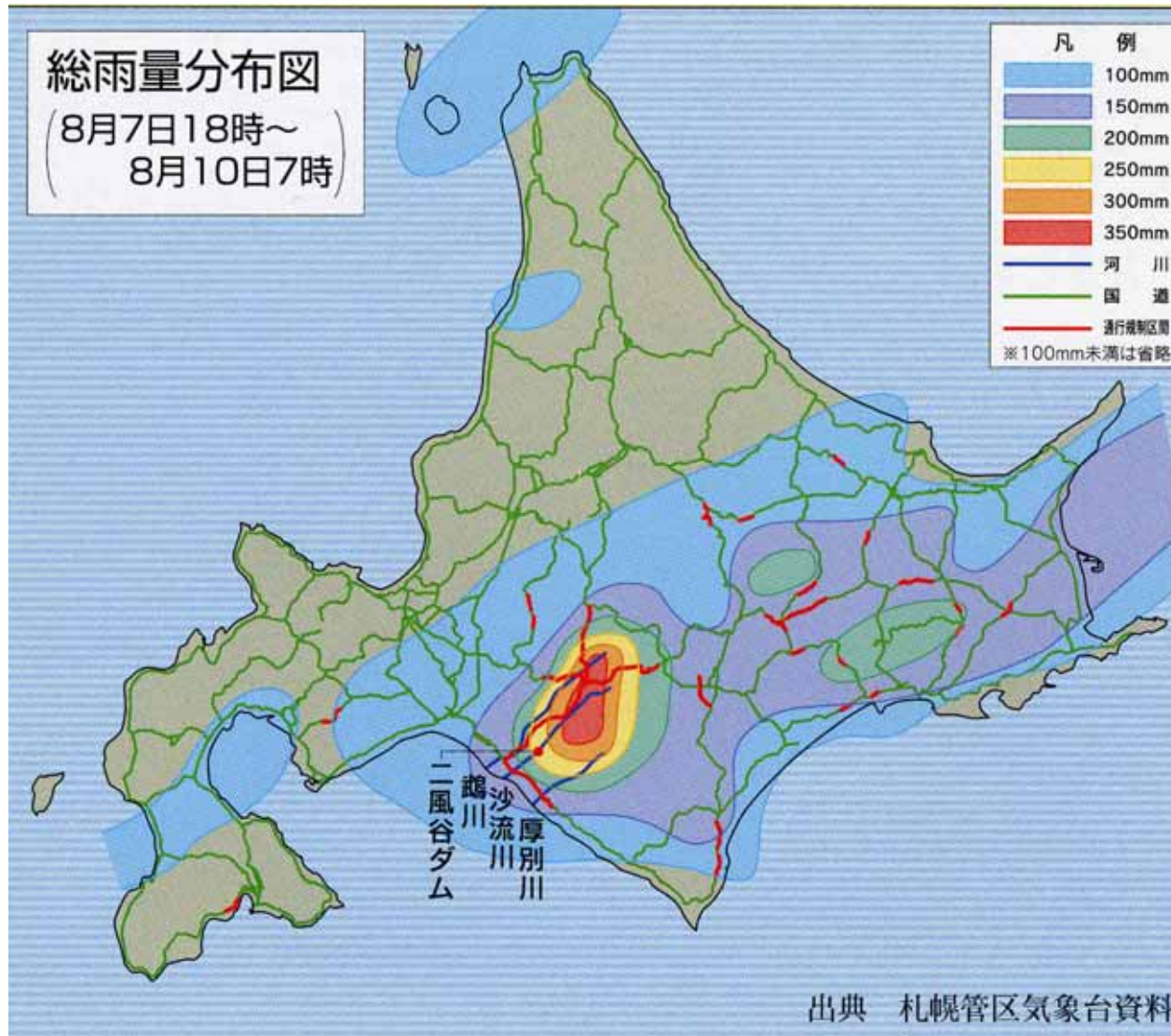


## 具体策

現行の河川整備計画の基本的な考え方を踏襲する。(二風谷ダムと平取ダムにより最大限洪水調節し、それでも不足する洪水流量を河道で対応する。)



両ダムの洪水調節効果を最大限活用する。  
その上で河道掘削の区間、断面を拡大する。

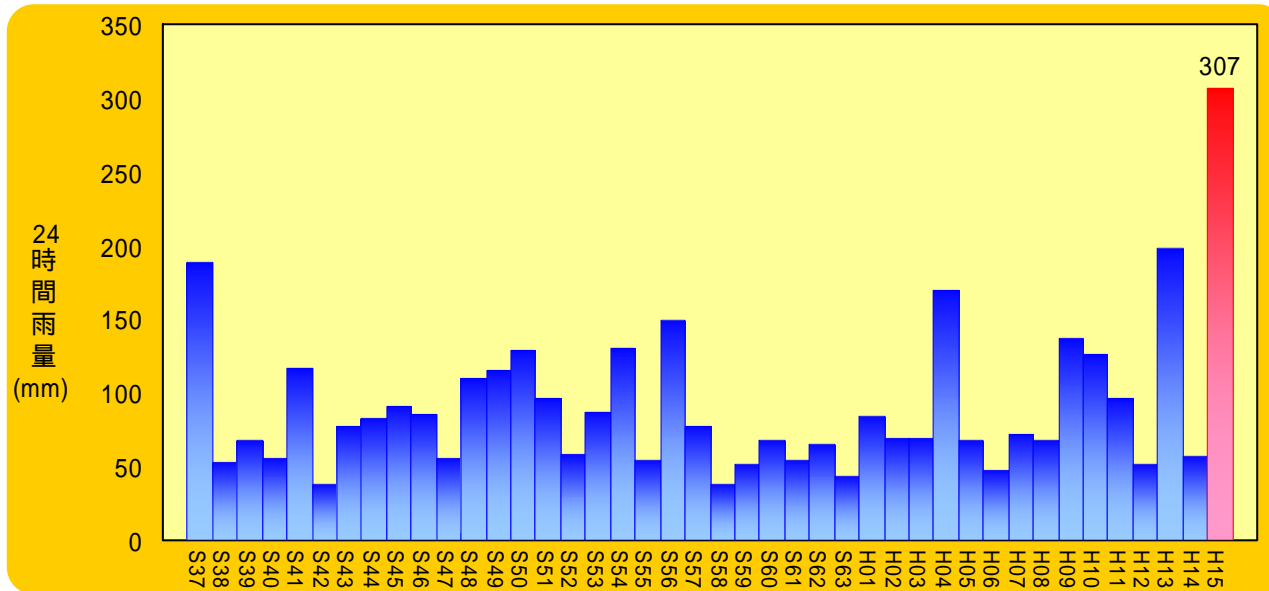


### 台風10号豪雨災害 被害状況 (平取・門別町)

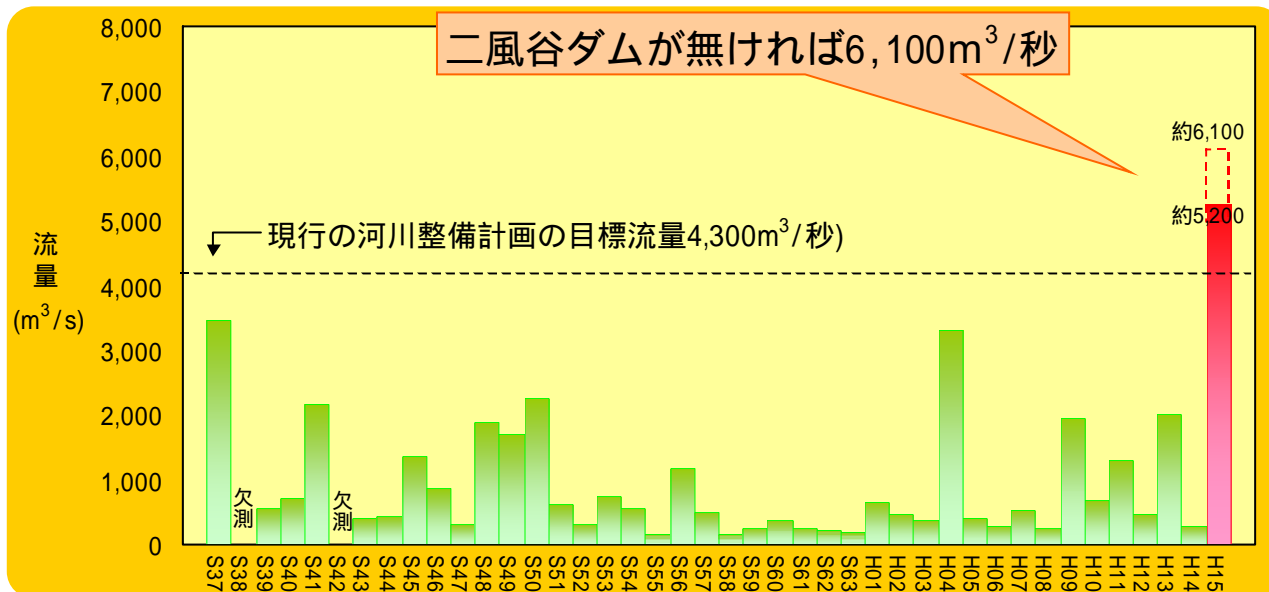
死者・行方不明 3人  
 家屋全壊 10棟  
 家屋半壊 6棟  
 床上浸水 79棟  
 床下浸水 172棟  
 農地被害 1,161ha

【H14・15 災害記録】北海道より

# 沙流川における洪水時の降雨量と流量の経年変化



年最大流域平均雨量 (平取基準地点)

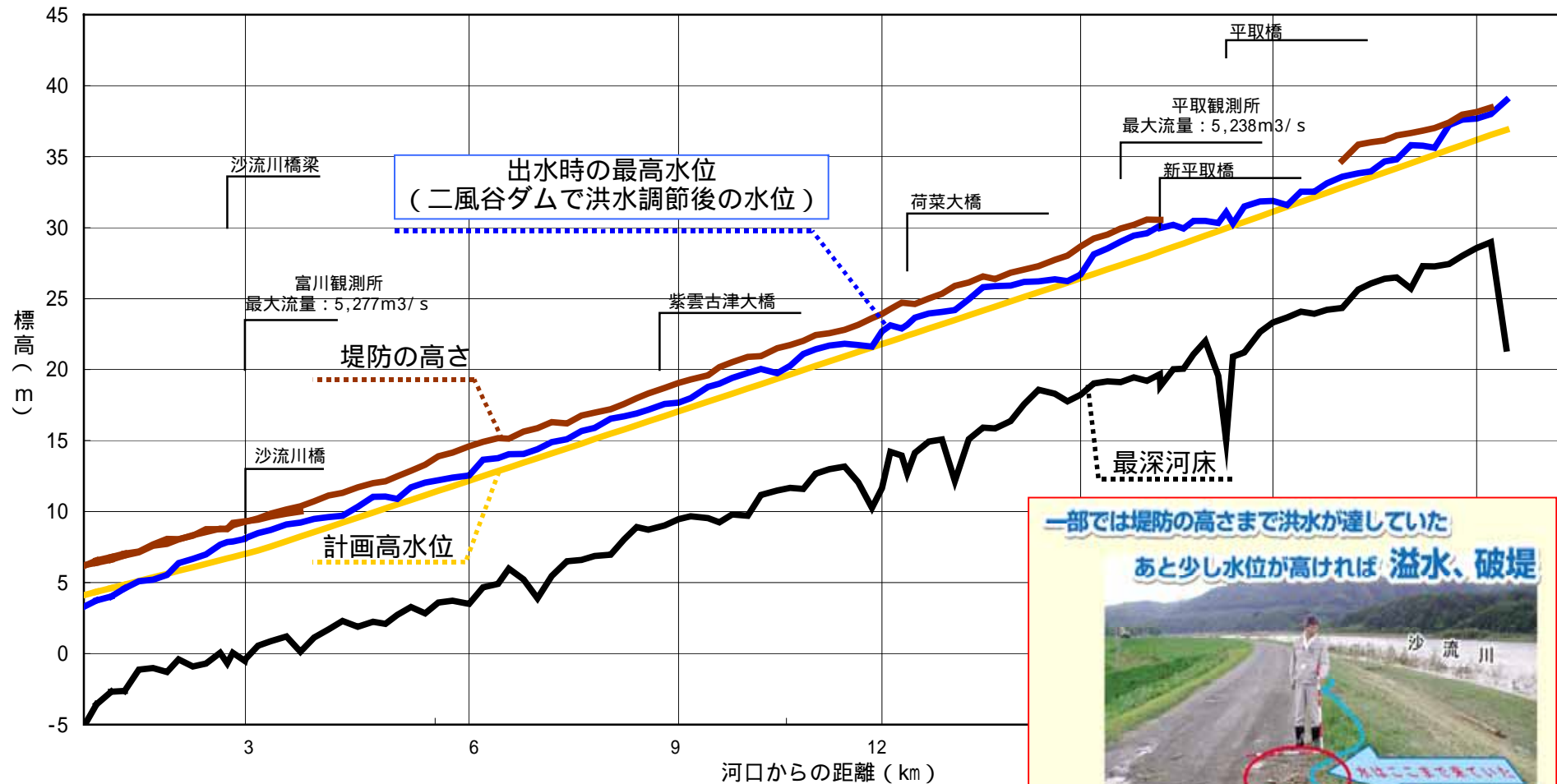


二風谷ダムが無ければ6,100m³/秒

← 現行の河川整備計画の目標流量4,300m³/秒)

年最大流量 (平取基準地点)

ほぼ全川で計画高水位を超えており、堤防は極めて危険な状態でした。



水位縦断図





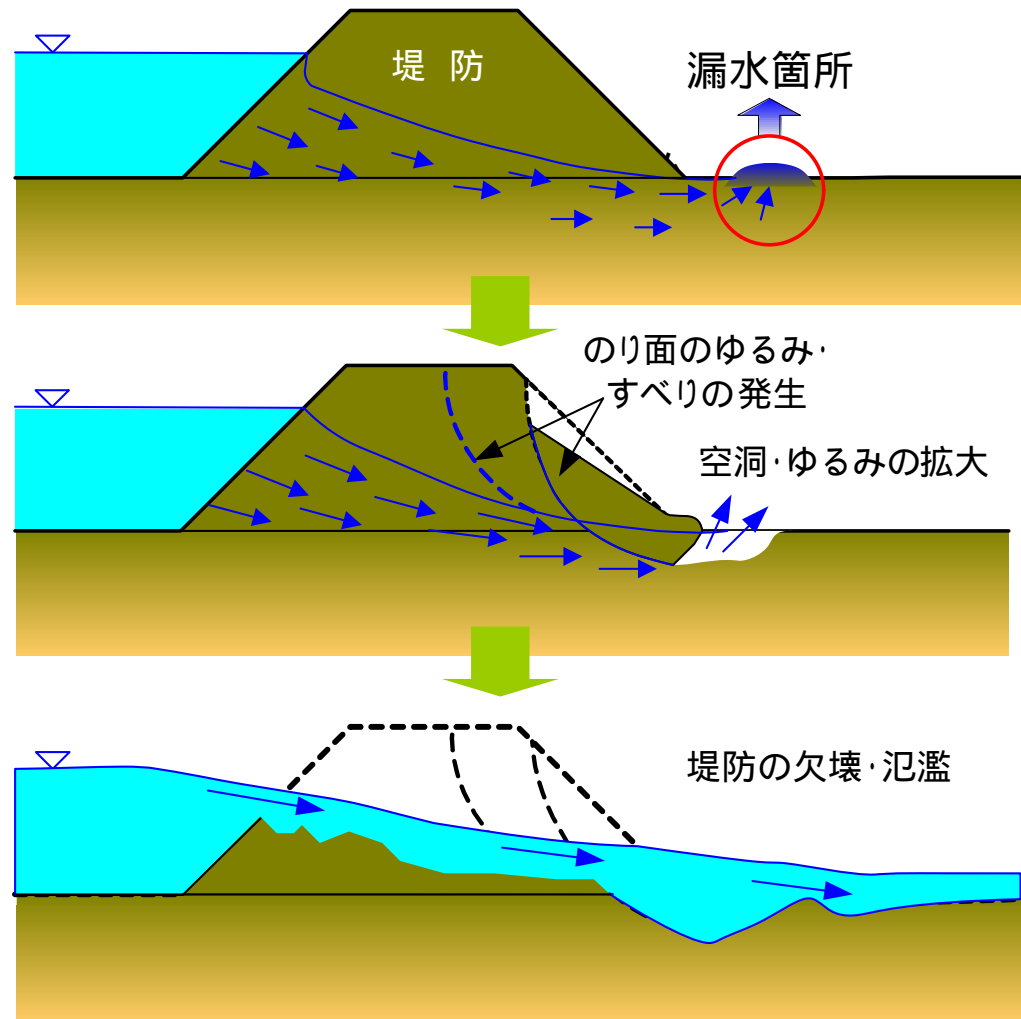
# 平成15年台風10号洪水時の堤防の状況

漏水が確認されるなど、堤防は極めて危険な状態でした。



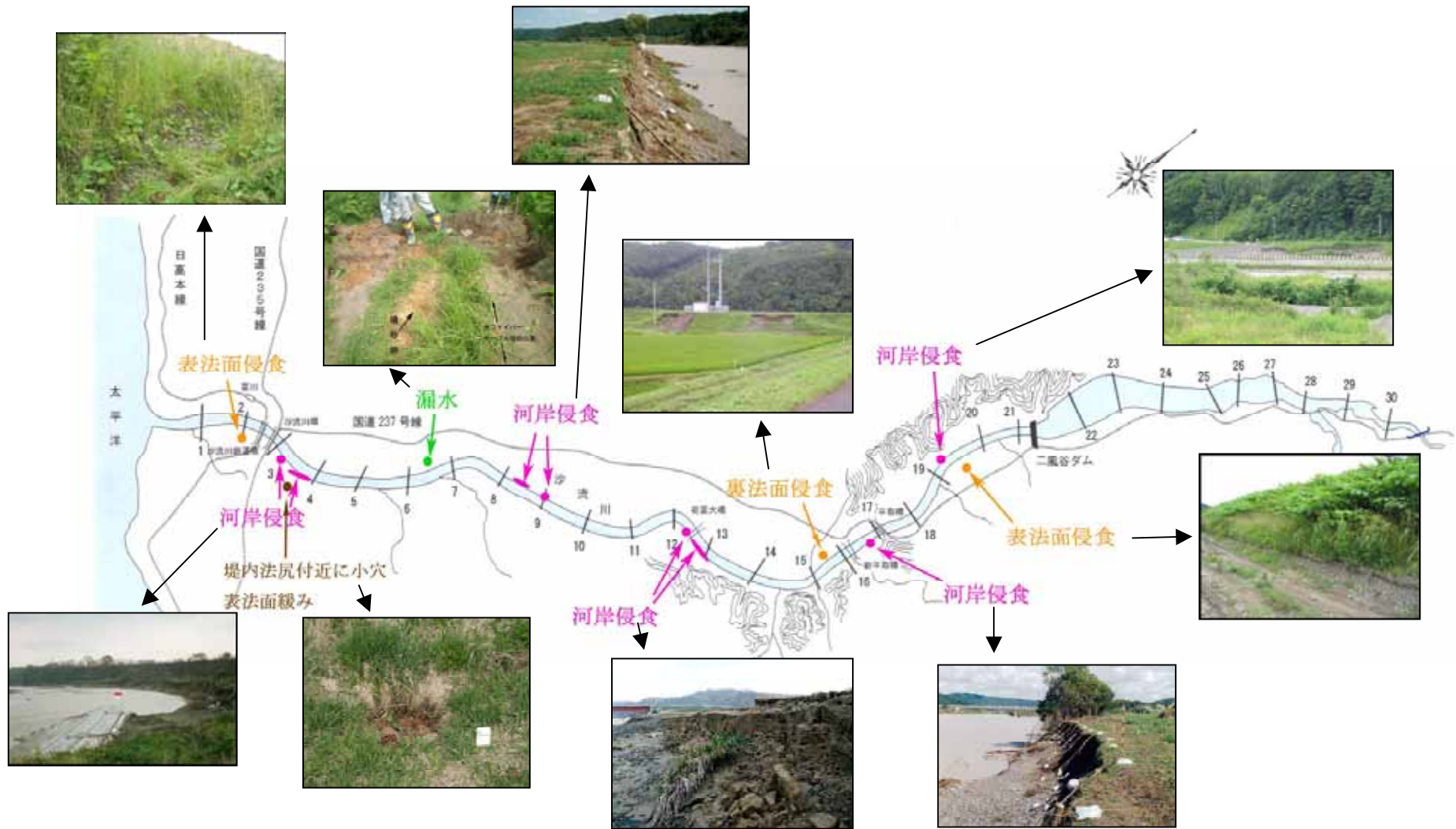
富川地先(河口から約6km)の漏水箇所

## 漏水による破堤のメカニズム



# 平成15年台風10号洪水時の被災状況

各所で河岸侵食・堤防侵食・漏水が発生し危険な状態でした。



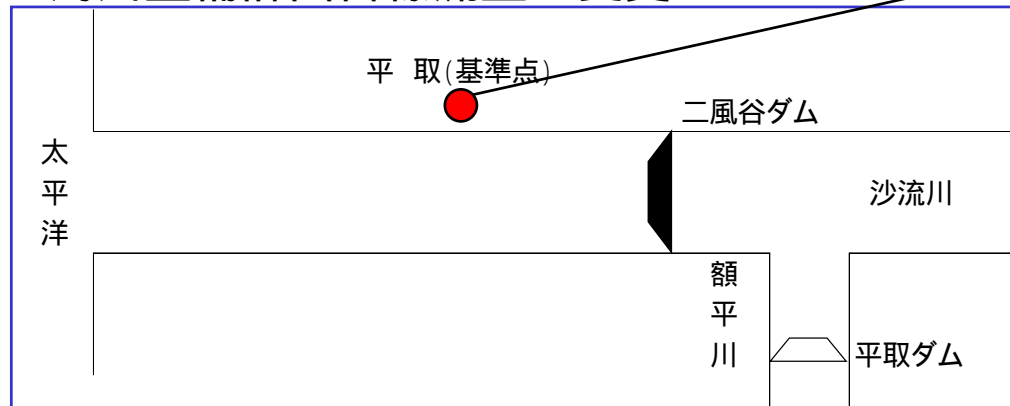


- 多くの河川では、目標流量を戦後最大の洪水規模を対象としている場合が多い。
- 現行整備計画では、当時、戦後最大(S37.8洪水)の洪水規模を目標流量と設定した。

目標流量の考え方を踏襲

- 戦後最大の平成15年台風10号洪水を目標流量とする。**  
目標流量:平成15年台風10号実績洪水 ピーク流量6,100m<sup>3</sup>/秒

## 河川整備計画目標流量の変更



平取基準地点

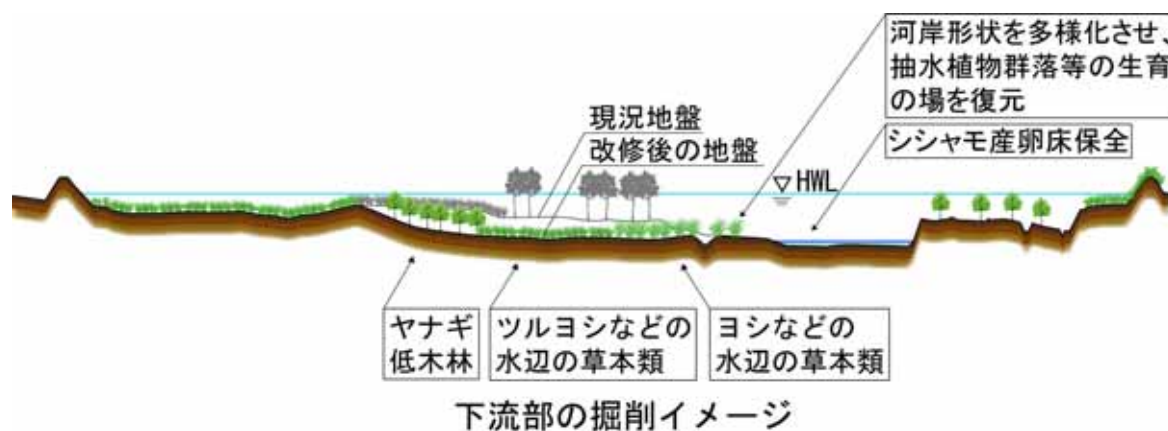
(m<sup>3</sup>/秒)

	現行河川整備計画	変更案
目標流量	4,300	<u>6,100</u>
河道への配分流量 (洪水調節量)	3,200 (1,100)	4,500 (1,600)

## 治水の考え方

- 目標流量を平成15年台風10号洪水に鑑み変更  
4,300 m<sup>3</sup>/秒      6,100 m<sup>3</sup>/秒
- ダムの洪水調節機能を有効活用  
1,100 m<sup>3</sup>/秒      1,600 m<sup>3</sup>/秒 (平取地点洪水調節量)  
利水等容量を洪水調節容量に振替て、洪水調節容量を確保
- その上で不足分を河道掘削で対応  
3,200 m<sup>3</sup>/秒      4,500 m<sup>3</sup>/秒

- ダムの洪水調節容量を最大限活用した上で不足する洪水量を河道掘削で対応
- 河道掘削の実施にあたっては、シシヤモ等動植物の生息環境の保全に配慮する現計画の考え方を踏襲



現況 イメージ図



掘削箇所

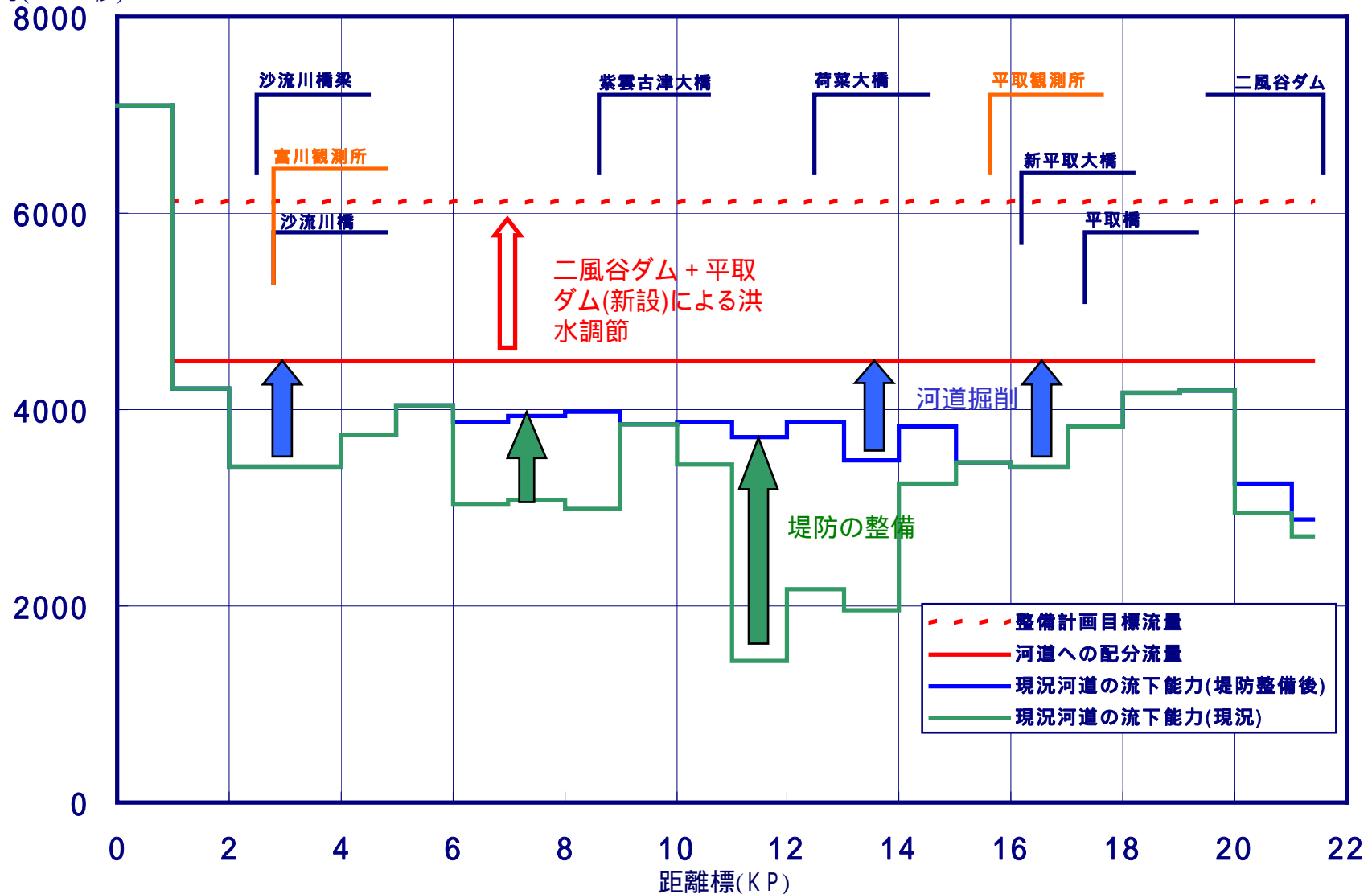


整備後 イメージ図

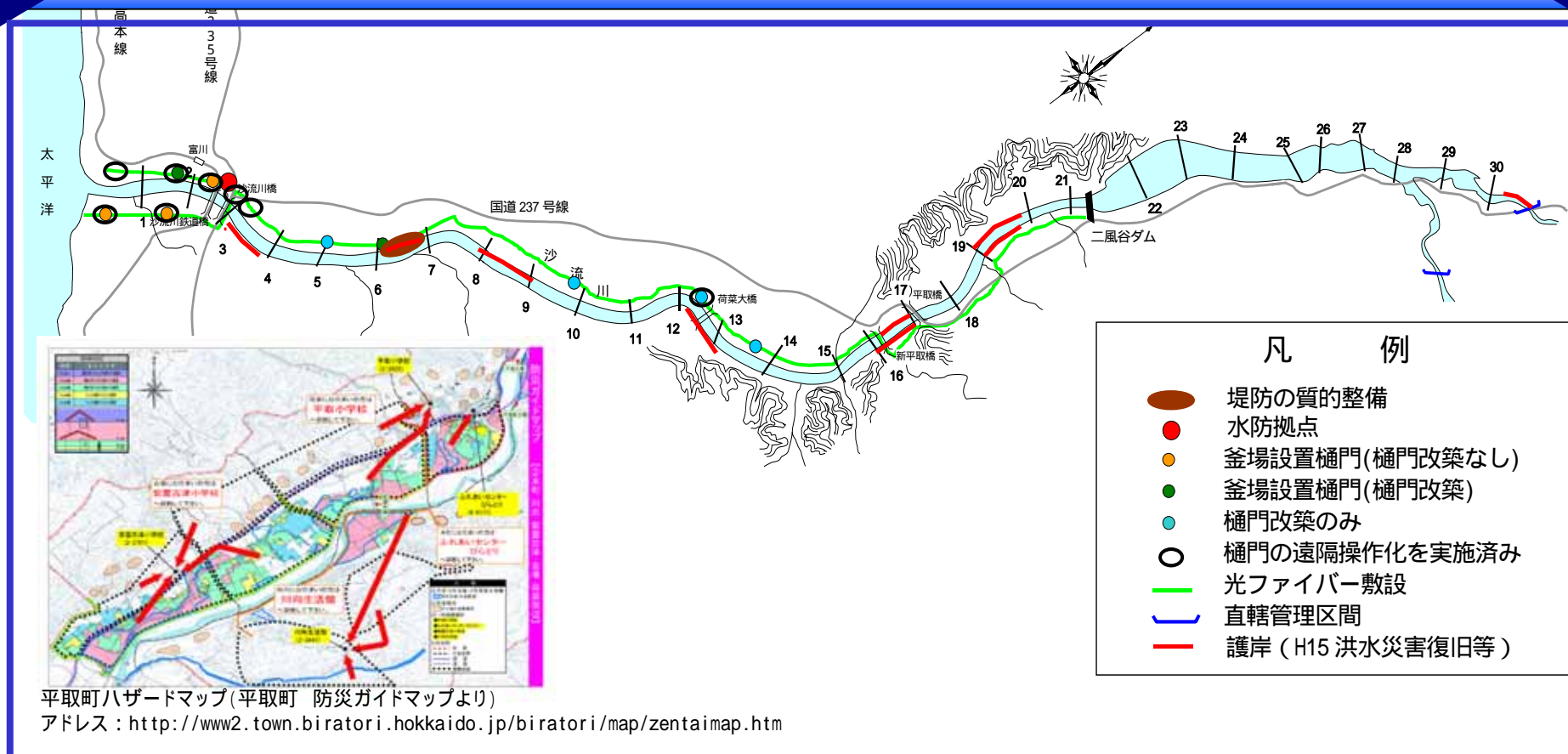


- ダムによる洪水調節と河道掘削などの治水対策により目標流量を安全に流すことができる。

流下能力(m<sup>3</sup>/秒)



沙流川流下能力図



## 平成15年台風10号洪水の緊急対応は平成17年度までに完了

- 門別・平取・日高町がハザードマップを公表(H16.3、H16.7、H16.8)
- 二風谷ダムより下流の光ファイバーは一連区間整備完了(H16年度)
- 樋門の遠隔操作化は8樋門完了(H17年度まで)
- 老朽化の著しい16樋門の改築整備完了(H17年度まで)
- 護岸は実施済み。(H17年度まで)堤防の質的整備は実施中



- 平成15年台風10号洪水時に二風谷ダムで捕捉した約6万m<sup>3</sup>の流木は、パルプ材や土壌改良材、また地元の方々の協力により流木ベンチの製作や希望者への無料配布を行う等、有効活用。



流木撤去状況



流木撤去状況

破砕機で粉砕処理  
(チップ化)

パルプ材としての利用

燃料用としての利用  
(キャンプファイヤー用・薪など)

原木のまま再利用



完成した木製ベンチ



ベンチ製作の様子



ボイラー用燃料・木製加工品への利用



土壌改良材としての利用



家畜敷き材としての利用

チップ化して再利用

## 平取ダム環境調査検討委員会（平成15年4月～）

目的：昭和57年に沙流川総合開発事業の環境影響評価を完了しているが、最新の知見に基づいた補足調査を実施中。これまで6回の委員会を開催



## アイヌ文化環境保全対策調査委員会（平成15年5月～）

目的：ダム建設予定地周辺における、アイヌの文化的所産に与える影響について、調査及び評価と対策案の提示を目的として、これまで14回の委員会を開催。

## 埋蔵文化財試掘調査（平成14年～）

目的：平取ダム建設予定地周辺では、文化財保護法に基づき、北海道と協議し埋蔵文化財の試掘調査を実施中。調査を必要とする区域：13箇所)

